



境界線を守って楽しい毎日を

南小学校 六年 馬場 柚樹

僕は、学級活動の授業で、性暴力アドバイザーの方から、「境界線」について教えていただきました。その中で、心に残ったことが二つあります。

一つは、「人間には透明なバリアがある」ということです。今までに「境界線」という言葉を聞いたことはありましたが、その意味について、深く考えることはありませんでした。今回の授業で、「すべての人間には、透明な境界線のバリアがあり、いろいろな形がある」とことを教えていただきました。人に近寄られたり触れられたりして嫌だと思ふのは、バリアをこえた時だそうなんです。境界線の形は、人によって違うので、自分だけではなく、相手が嫌だと思わないかどうかを考えて、程よい距離を保ちたいと思います。

二つは、「プライベートゾーンは大切なところを守る」ということです。僕は、自分のプライベートゾーンは、「体の中で大切なところを守る」と思っています。

【先生のコメント】

柚樹さんは、授業で学習した内容から、自分の考えをつくりたり、自分の経験を思い起こしたりしています。「境界線」や「プライベートゾーン」の話から、自分自身を守るだけではなく、相手の気持ちや立場などを考えながら行動していくことの重要性に気付きました。柚樹さんなら、家族や友達、いろいろな人と楽しくかかわりながら生活していくことができると思います。卒業まで、半年余りとなりまして。柚樹さんも周りのみんなも楽しく過ごすことができるように、力を合わせて共に頑張りましょう。



人権擁護委員による人権相談(無料)

ひとりでも悩んでいませんか?

【特設人権相談所】

- 日時 9月17日(水) 13時~16時
場所 山川市民センター
相談内容 いじめ、体罰、部落差別、女性差別、外国人の問題、家庭内(夫婦、親子、結婚、離婚、扶養、相続など)、借地借家、相隣間のもめ事や悩み事など

【女性相談所】

- 日時 9月11日(木) 10時~15時
場所 福岡法務局柳川支局
相談内容 原則として女性からの相談(夫やパートナーからの暴力、職場などでのセクハラ、パワハラおよびストーカー行為など)
※女性の人権擁護委員が相談に応じます。

【常設人権相談所】

- 時間 8時30分~17時15分
場所 福岡法務局柳川支局
相談担当者 法務局職員、人権擁護委員
相談電話番号 (TEL)0570-003-110

福岡法務局柳川支局(TEL72-2640)



名取恭さん

今年4月、「Fenix鍼灸」をオープンした名取さん。以前は本市の地域おこし協力隊として活動し、さまざまなイベントに携わりながら地域を盛り上げてきた。協力隊の任期を終えた今は、市内で鍼灸師として新たな一歩を踏み出している。



【地元から飛び出し、未踏の地へ】

山梨県出身の名取さんは、地元山梨の接骨院で働く中で、出会いや刺激の少なさを感じていた。「さまざまな経験を通じて、人間としての幅を広げたい」という思いから、全く知り合いがない場所での挑戦を決意。みやま市で「地域おこし協力隊」としての活動を始めた。

地域おこし協力隊としてイベントを企画・開催していく中で、徐々に友人や知人の輪が広がっていったと語る名取さん。現在、鍼灸院を開業しているのも、協力隊時代に開催したマルシェで市民の方に言われた言葉がきっかけだったという。「うちに余ってる施術用ベッドがあるから使わない?」と声をかけてくださった方がいたんです。ベッドをい

ただいたことで、『もらったからにはやるしかない』と思ひ、鍼灸師として活動することを決めました。あの時の出会いがなければ、今の自分はいなかったと思います。」

【一人ひとりに寄り添いながら】

名取さんが心がけていることは、「二人ひとりとしつかり向き合う」こと。自身が施術を行うことで、お客様の悩みが解決し、その人の生活がよりよいものになることがやりがいに繋がっているという。

「お客さんが、体調が悪い時だけでなく、心が疲れた時に『話を聞いてほしい』と来てくださった時、とてもうれしかったことを覚えています。『施術師とお客さん』という関係を超えて、友人やご近所さんのような距離感でいられる鍼灸師を目指したいです。」

地域おこし協力隊での活動や交流で生まれた人との繋がりが、現在の活動へと続いていると語る名取さん。「今の活動があるのは、みやま市の地域の方々のおかげです。今後、一人ひとりに寄り添い、その方々と体の健康の手助けになれるように頑張っていきます。」



▷地域おこし協力隊時代の名取さん。清水山荘で行われたハロウィンイベントの様子



▷みそづくり体験イベントの様子。当時の地域おこし協力隊メンバー3人と参加者